

縄文時代（約5000年前）からダイナミックな交流がされていた！

平成21年から23年まで、北海道新幹線の送電施設建設に伴う発掘調査（館崎遺跡）で、長野県霧ヶ峰周辺の黒曜石製の「石鏃」がみつかりました。

長野県木曾町・北海道福島町 生徒交流事業

福島町が友好市町協定を締結している「長野県木曾町」との中学生の交流が実施されました。

8月2日（水）、北海道新幹線で大宮へ、北陸新幹線で長野、そして、特急で木曾福島へ到着。およそ8時間の長旅でした。縄文時代のロマンを感じながら、北海道最南端の町「福島町」から、本州のど真ん中の町「木曾町」へ。

8月3日（木）は、文化的、民族的遺産である「木曾馬」の乗馬体験と、霊峰御嶽山の7合目までロープウェイで登り、雲海カフェで「ブルーベリーソースのチキンかつ」をいただきました。（不思議な味でしたが、おいしかったです。）



午後からは、郷土食体験として「五平餅づくり体験」で、木曾町の中学生と仲良く共同作業をし交流を持つことができました。夕方に、宿泊するホテルに併設している「宇山カントリークラブ」でカートに乗車し、9ホール乗車体験をして楽しいひと時を過ごしました。夜は、あいにくくもり空でしたが「花火」と「星空観察」をしました。8月4日（金）は、江戸時代、江戸と京都を結ぶ重要な街道である中山道。木曾路の奈井江宿を散策。午後からは、現存する日本最古の五重天守閣を有する「国宝・松本城」を見学し、歴史学習をすることができ、大変貴重な経験をすることができました。夜は、引率者は「木曾会」メンバーの盛大なおもてなしを受け、子どもたちは宿泊先の「エーサイ木曾駒山荘」（エーサイ産業の保養施設）で、ふかひれや馬さしをいただいたそうです。（すんごいごちそうですね。）

8月5日（土）は、木曾文化交流センター（図書館を併設した公民館的施設）で送別式をしていただき、3泊4日の生徒交流事業を終え、深い友情と素晴らしい体験、バックいっぱいのお土産を抱えて北海道に帰ってきました。参加した子どもたちからは、気候や文化、歴史、風土の違う木曾町での楽しい体験が語られていました。

心からのおもてなしと、細部までのごころ使いただいた木曾町の教育長さんはじめ、職員の方々に感謝いたしております。

